

岡山県議会議員

太田まさたか

おおた



プロフィール

昭和39年生まれ 60歳

〔役職歴〕県議会副議長、県監査委員、総務委員会委員長、農林水産委員会委員長、土木委員会委員長

〔選挙区〕岡山市北区・加賀郡

県政だより 令和6年 VOL.55

編集責任者:太田正孝 岡山市北区延友455 TEL.(086)201-5523

地方振興をテーマに

論戦に挑みました!!

平素は私の議員活動に對して、温かいご理解ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

夏のオリンピックでの岡山県出身選手の活躍は、私たちに大きな勇気を与えてくれました。心からお祝い申し上げますとともに、感謝を申し上げます。

この県政だよりが届くのは、知事選挙・衆議院議員選挙の結果が出てからになっていると思います。この県政だよりの作成は知事選挙前に行いました。したがって、紙面は知事選挙前までの内容となっております。何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

さて、今夏はとても暑い夏で、熱中症による救急搬送者が増えました。また、台風の大規模化や線状降水帯の度重なる発生等もあり、全国各地で水の被害が多くありました。被災地の一日も早い復旧復興をお祈りします。こうした状況を受けて、九月定例会議で一般質問では、多くの議員が

熱中症対策、防災などの課題を取り上げました。

そして、私の一般質問について報告します。六月と九月の両定例会議で取り上げたのは、地域振興に関することです。地域振興の大切さは、今さら申し上げることもありませんが、日本が苦境に立たされた時、いつも日本を救ってきたのは元気な地方でありました。明治という時代も、戦後の高度経済成長の時もそうでありました。地方自ら一生懸命汗を流すと伴に、暮らしを上向きにしたいとのエネルギーを都会にも送り込んだのです。また、これらの時代は、

国政からも「ふるさと」の地方を支えて行くこととの政策が次々に打たれました。その結果、地方と都会の良い関係が作られたのです。ところが、現在、都会を支えて来た地方の体力が弱くなり始め、この都会と地方の関係が崩れ始めています。そこで、岡山県は「産業振興」と「教育再生」のツインエンジンによる岡山県の

好循環構築の取り組みを開始しました。一時期の厳しい状況から脱したものの、岡山県の県土は七十五%が中山間地域で、高齢化率が四割を超える地域が増え続けています。そして岡山県や市町村の体力だけでは限界となっていて、領域が、河川や道路、橋梁、上

下水道などの維持管理に留まらず、農業振興、中小企業振興などにも広がっています。これでは、個性溢れる地方が連なって出来ている日本の輝きを失うこととなります。石破内閣の掲げる地方創生をしなければなりません。この点に一番注力したいの思いで、質問で取り上げたテーマは、「子育て世代への支援策」、「国の結婚新生活支援事業の活用策」、「中産階級層づくり」等でした。

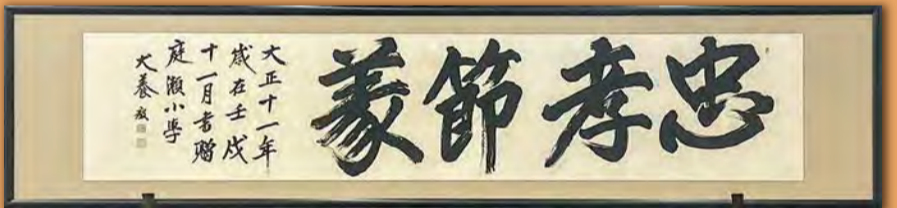
今回の県政だよりでは、こうした六月と九月の両定例会議で一般質問で取り上げたことを中心にまとめました。最後までお読みただけると、うれしく思います。

末筆になりますが、皆様のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げます。

岡山県議会議員

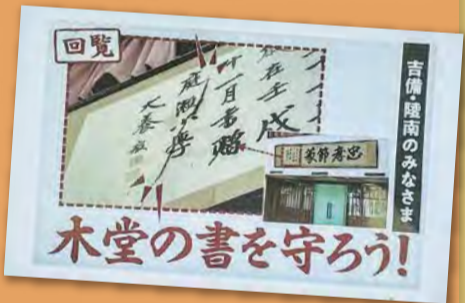
太田 正孝

犬養木堂翁書「忠孝節義」の除幕式に参加しました!



大きさ：縦1m×横5.2m

住民有志の力で大正11年作 犬養木堂翁書「忠孝節義」が9月29日に修復されました。大切に管理すれば100年は大丈夫とのこと。



6月 9月

定例会議会 一般質問

6月定例会議会、9月定例会議会の両定例会議会で一般質問を行ったので、要旨を報告する。

6月定例会では、第4次晴れの国おかやま生き活きプラン(仮称)、働き方改革、子育て世帯の住宅政策などを取り上げた。そして、9月定例会では、知事選の前に、知事の三期12年間の実績、サイクリングルートの整備等を取り上げた。

本来は、知事選挙の前に、県政だよりにまとめたかったが、9月定例会閉会日が知事選挙告示日に近かったために、知事選挙後の完成となった。何卒ご理解をいただきたい。

第4次晴れの国おかやま生き活きプラン(仮称)について

本県はどんな岡山を創ろうか、としているのか、そこに向けてどう取り組むのか、第4次晴れの国おかやま生き活きプラン(仮称)の具体的な策定方針について、知事の御所見を伺う。

今後、さらなる人口減少社会の到来を見据えながら(二〇四〇年代半ばの)岡山の将来像を示すとともに、少子化対策はもとより、デジタル化や脱炭素化など、社会ニーズに的確に対応しながら検討を進めていきたい。

〔答弁を聞いて〕二〇四〇年の出生数は、各市では八十七人(高梁市)、九十七人(美作市)百六人(新見市)、というような市がある。こうなると、二〇四〇年にこれらの市はどういう姿になっているのかというのを、きちっと二〇四〇年の姿として示していけるべきではないか、どうでしょうか?

〔知事〕今、それぞれの地域は人口減少問題に直面をしている。できるだけ早く出生率を戻さなければいけない、(出生率)二に近づけ、少し超えるあたりで安定をさせな

ければいけない。もし、明日、魔法のようなことが起きて、明日から合計出生率が二を超えたということになっても、それぞれの地域、岡山県全体の生産年齢人口は、長期にわたって減少を続けることはもう確実。その両方に我々は備えていかなければいけない。子供は、増やさなければいけない。どんな努力をしたとしても、これから生産年齢人口の減少に耐えなければいけない。そういった現実を見据えた計画にしなければいけない。長期的に我々は住みやすい豊かな地域にしていくとの確信を持って取り組んでいくけれども、現実的にはなかなか大変な問題もある、そういった両方のことを踏まえて計画を立てていきたいと考えている。

〔答弁を聞いて〕高梁市は、二〇二二年、八十七人赤ちゃんとが生まれている。十五年後に、転入がなければ、県立高校の定員よりも少ない人数になる。そういう状況になった時のことを、この生き活きプランは想定して、高校の再編であるとか、産業振興であるとか、こういうことを考えているでしょうか?

〔知事〕二〇四〇年半ばを考えるとプランをつくるが、二十年後のこと

について、そこまで詳細なプランを立てるといふことにはならないと考
えている。子供の数がこのままいけ
ば減っていく場合、どう備えなけれ
ばいけないのかは考えなければいけ
ないと思っている。どれくらい具体
化するのか、抽象的ではありながら、
我々の対応策を考えるのか、メリハ
リはしっかりとつけていきたい。

働き方改革に関して

(過去を振り返ると)時代の
変革期はいつも「長期展望に
立脚した課題解決型の思考」に基づ
く頑張り方(働き方)がなされてい
たと知る。(令和の時代では)こう
いう形が「令和の頑張り方」だとい
うことがあるでしょうか？

知事 二十年后、三十年後の岡山の
未来を見据え、県民や地域が抱える
課題に対し、より効果的な手法を追
求し、他者とも適切に連携しつつ、
実践と検証を繰り返しながら、合理
的に解決を目指していくことが大切
である。

子育て世代への
住宅政策について

県が実施した結婚・出産・子
育てに関する県民意識調査で
は、子育て世代が希望する子供の数
が二・〇六人ということから、二人
の子供を持つ世帯とすると、一般型
誘導居住面積水準、都市居住型誘導
居住面積水準は、それぞれ百二十五
㎡、九十五㎡となる。これに見合う
子育て世帯向け公的賃貸住宅が県内
にどれくらい準備され、どれくらい
利用されているのでしょうか？ま
た、子育て世代向けの民間賃貸住宅
利用促進のための補助制度がどれく
らいあり、どれくらい利用されてい
るのでしょうか？

土木部長 誘導居住面積水準を確保

している公的賃貸住宅は、市町村営
住宅六十六戸、地域優良賃貸住宅十
五戸の計八十一戸あり、そのうち子
育て世帯二十九世帯が入居してい
る。また、子育て世帯向けの民間
賃貸住宅利用促進のための補助制
度としては、三市町で独自の制度が
設けられており、昨年度は合計十四
件、計約二百万円が補助されている。

(答弁を聞いて)かなり若者
に対する施策が弱いのではないな
いかと思うが、この戸数についてど
ういう現状認識でしょうか？

それから、これからありとあらゆる
ことをやっていくということにな
ると、一桁も二桁も増やしていくべ
きだと思いが、一桁も二桁も増やす
ためのお考えを持っているのでし
ょうか？

土木部長 お答えした計八十一戸は、
公営住宅等で九十五㎡という広い面
積のものである。質問の中で、九十
五㎡の基準について、大きな子供が
二人いる四人世帯で(計算されて)、
九十五㎡となっている。例えば、小
さい子供一人ないし二人なら、九十
五㎡までは求められていない。その
ような住宅なら、県営住宅、市町村
営の住宅等も多くあるものと考えて
いる。

県営住宅について、もともと住宅
を自力で確保することが困難な方が
健康で文化的な生活を行うと、その
ような目的で整備しているもので、
誘導居住面積水準に見合う県営住宅
という広い住宅の整備は、現時点で
は考えていない。優先入居であったり、
所得要件の緩和であったり、住
民のニーズを踏まえて、希望する所
に入居できるように、現状を把握す
る。優先入居等のさらなる対策が必
要であれば、住宅の確保、供給の確
保につなげてまいりたい。

(再々質問で)二・〇六人の
子供を希望していて、県営住

宅は今までそういう大きなスペース
を持つていたものはなかったから、
こういう結果だったということであ
る。県営住宅の稼働率は低いですよ
ね、そんなに九十%とか、そういう
高さではないと思う。部長が言われ
たように、九十五㎡以下のもので
あっても子育て向けの方々が入れ
るように、残って使われていないとこ
ろを子育て向けに改修するべきだと
思うのだが、されていないと思う。
どうしてされないのでしょうか？

土木部長

公営住宅のもともとの目
的は、自力で確保することが困難な
方を対象に整備することである。そ
のような方が入居できることが第一
だと考えている。

一方で、子育て世帯の方にも、入
居していただく取組も一方でまた重
要だと考えている。できるだけ希望
するところに入れるように努めてい
る。現状、県営住宅の壁が一部落ち
ることもあって、住民の生命に繋が
る対策を優先的にやっている状況で
ある。そのようなことで、おっしゃっ
たように改修のようなところもこれ
からできるような状況になれば、ま
ずはそのような命を守る対策をしつ
かりとやった上で検討してまいりた
いと思う。

マイホーム購入費補助について

子育て世代向けの住宅政策を
打つてはどうですか。若者の
マイホームの夢の実現に対して、土
地代を含めてのマイホーム購入費補
助や魅力ある公営住宅の提供など、
新たな住宅政策を打ち出す考えはあ
るのでしょうか？

知事

マイホーム購入費への補助制
度までは考えていないが、これまで
も県営住宅への入居に当たり、子育
て世帯への優先入居の拡大や所得要
件の緩和などを行ってきた。今後と
も、県営住宅への子育て世帯の入居

希望の状況を踏まえ、必要な場合に
はさらなる対策を検討し、より多く
の子育て世帯の方々が希望する住戸
に入居できるよう取り組んでいき
たい。

国の結婚新生活支援事業の
活用促進について

婚姻した世帯の新生活に係る
住宅費用などを補助する国の
結婚新生活支援事業(年齢条件に
よつて、上限は六十万円まで)を活
用していない五万人以上の市におい
ても活用されるように、県から何か
インセンティブが働く政策を打つ考
えはあるのでしょうか？

知事

事業の活用に向け、結婚支援
の推進を図る連絡会議での制度説明
や、未実施市町村への個別の働きか
け等を行っている。実施に当たつて
の直接的なインセンティブは考えて
いないが、引き続き、制度のメリッ
トや実施市町村の状況など丁寧な情
報提供を行い、各市町村の実情に応
じた取組が進むように支援してい
きたい。

(答弁を聞いて)国の制度で
すが、五万人以上の市が活用
されていません。子育て世帯につい
ては、所得が増えない、さらには今
の物価高騰であったり、それから周
辺の住宅取得が難しくなつていたり
して、これは公的な補助という形で
大変すばらしいものだと思う。

働きかけをして下さっているとい
うことであるが、大きいまちほど全
国的にしない傾向がある。どうして
しない傾向にあるか御存じでしょ
うか？

知事

私もよく分かっていないので、
ぜひ教えていただきたい。

(答弁を聞いて)例えば、二
十九歳以下のカップルです

が、(上限)六十万円、三分の一
を各市町村負担するようになってい
る。人口が何十万人もいるところ
になると、単市の負担が大きくなる。
さらには窓口が十分できていないの
ではないかと思う。ヒアリングをし
て聞いている。知事は聞かれていな
かったのでしょうか？

子ども福祉部長

結婚新
生活支援事業は当部が所管をしてい
る。各市町村から私のところに、そ
こまでの聞き取りがなかった。いろ
いろとお話をお聞きする中で、おっ
しゃるように三分の一とはいえず、大
規模な市になると対象となる方も多
くなるだろうということであるの
で、負担が小さくはないのだろうと
承知はしている。(これは)市町村
のそれぞれの任意の判断という部分
もある。

そして、県においては、その働き
かけもそうであるけれども、この国
の交付金の制度の中で、県がそう
やって幾らかバックアップをする
と、少し補助率がアップされる仕組
みにもなつているので、そのあたり
も踏まえて、県としても応援、支援
を行つていきたい。

旭川水系中流ブロック
河川整備計画に関して

この度の国の次期河川整備計
画に事前放流を位置づけるこ
とにより、どれくらい(旭川水系中
流ブロック河川流域の)浸水区域を
減少させることができるのでしょうか？
また、県計画にどのような影響
が出るのでしょうか？

土木部長

国が河川整備計画にダム
の事前放流を位置づけ、計画に基づ
きダムの運用が行われるようになれ
ば、旭川中流域の安全度は向上する
と考えているが、計画の具体的な内
容は、現在、国において検討中であ
ることから、その状況を注視しつつ、



旭川中流域の重点工事箇所視察

必要に応じて浸水区域や県計画への
対応を検討していきたい。

今後の旭川中流域の
重点工事予定箇所について

建部町小倉地区の工事完了の
めどがつかつつつあるが、今後は
どこを重点に工事を行つていくので
しょうか？

土木部長

現在施工中の小倉地区の
完了のめどがつかつたことから、平成
三十年七月豪雨において堤防の決壊に
より被害の生じた御津国ヶ原地区の
河川整備を進めるよう検討している。

岡山大空襲等について

岡山県の教育の中で、岡山大
空襲や五・一五事件を子供た
ちにどのように学習させているので
しょうか？また、その際に、岡山シ
ティミュージアム、岡山空襲展示室
や犬養木堂記念館をどのように活用
しているのでしょうか？

教育長

社会科の歴史的分野におい
て、第二次世界大戦に突入する経緯
を学ぶ際に、五・一五事件を扱うと
ともに、戦争によって人類全体が大

大きな被害を受けたことを学ぶ際に、岡山上空襲の被害に遭われた方から直接お話を聞いている学校もあると承知している。

また、特別の教科道徳において、子供たち一人一人がよりよく暮らすことができる社会の実現について考える教材の一つとして、県教委が作成した郷土資料で犬養木堂の生き方を取り上げている。

さらに、総合的な学習の時間等を活用した平和学習の一環として、岡山シティミュージアムの展示室を見学したり、地域学習として木堂記念館を訪ねたりしている学校もある。

近代史学習

近現代史を学習する中で、戦争に対して日本社会がどう向き合ってきたのかを知ることは、これから生きる上でとても大切なことと考えるが、近現代史の学習を通して子供たちにどういう力を身につけてほしいと期待されているのでしょうか？

教育長 現代社会がどのような経緯で形づくられてきたかを理解し、今日的な課題にどう向き合い、今後、何をすべきかを考える上で、近現代史を学ぶことは大変重要であると考えている。特に、世界と日本の近現代史を一緒に学ぶことで、それぞれの出来事と比較したり、互いのつながりや影響、現代の様々な課題とどのように関わっているかなどを考えたりすることが大切であり、そうした学びを通して多様な視点で物事を見ることができると、主体的に社会課題に関わろうとする態度などを、子供たちには身につけてほしいと考えている。

9月 定例県議会 一般質問

産業振興の成果を実感に

第四次晴れの国おかやま生き活きプラン（仮称）の生き活き指標の中に、「運動機会」や「文化活動参加」等の指標は入っているが、動物園・水族館に行ったことがあるかの指標や日常生活で不満の多い「通勤ラッシュ」、「近くに店が無くなった」などに関する指標がない。個人の活動に視点を当てた指標を作り下されると、県民に身近なプランになると同時に、知事の功績の見え方になるかと考えるが、いかがでしょうか？

知事 県民に身近な指標も入れて行くことを考えている。一方、指標が多くなり過ぎると、かえって伝わり難くなる。素案取りまとめに当たって、県民目線で分かりやすく示せるように検討している。

中産階級づくり

工場の建替えや増改築要望を持っていても県道の幅員が開発道路（二号道路）までなくて困っている事業者等に対して、二号道路整備支援をすることで、生産性の高い工場に生まれ変わる。事業者の悩みを聞くと、仕事創出の方法は次々に出てくる。（中略）中産階級層の隆盛をどのように仕事創出と人材育成をしていくのでしょうか？

知事 企業誘致と投資の促進などに取り組むとともに県内大学と連携した人材育成や高等技術専門校におけるリスクリングの支援に取り組んでいる。

サイクリングルート整備（ブルーライン）

自転車走行空間にブルーライン（*）を引く手法が広く導入されている。しまなみ海道のサイクリングコースでは、推奨ルートとして車道の左側に「ブルーライン」を引いていて、尾道や今治等目的までの距離が表示して、残りの走行距離標示や分岐点に地図や看板を設置して安心して迷うことなくサイクリングを楽しめるようにしている。

このブルーラインについて。丁度一年前の定例県議会で、安全で快適な自転車通行空間の整備に関する議論をしてから、その後、ブルーラインの道路が増えてきている。県内でブルーラインの道路延長は五年前と比較して、現時点で総延長はいくらになっているのでしょうか？

土木部長 ブルーラインを整備した道路の延長は、五年前と比較して約九・七km増加して、現時点で一九・九kmとなっている。また、本県のサイクリング推奨ルートについては、従前より、交差点等において、ルート案内のための青色の路面表示を行っている。



吉備路サイクリングルートプラン

平成二十八年定例会の質問戦で、土木部長は、「吉備路サイクリングルートについて」名所旧跡に立ち寄りやすくなるようなルート変更も視野に入れながら、交差点・

報提供に努めていきたい。

サイクリストの受け入れ環境の整備等

マイ自転車をそのまま列車に持ち込める「サイクルトレイン」について。四国では五路線ある。県内にも、岡山を拠点に運行されている観光列車「La Malle de Bois」等も、サイクルトレインとなっている。La Malle de Boisのサイクルリストの利用状況はどうなっているのでしょうか？

産業労働部長 La Malle de Boisへの自転車持ち込みは、コロナ禍前までは年間三十件程度の利用があったものの、現状ではその水準まで戻っていない。

この度、森の芸術祭では特別に新見まで運行されている。La Malle de Boisの新見までの運行を通常化するようにJRに要望して頂けないのでしょうか？

知事 市町村と連携して、JR西日本に働きかけていきたい。

サイクリストの空港での受け入れ態勢

岡山桃太郎空港では、「自転車空輸用バイクボックスの有料預かり」、「サイクルステーションの設置」等を行っている。

岡山桃太郎空港でのサイクルリストの受け入れ態勢整備をすれば、松山空港からしまなみ海道に入り、呉から「La Malle de Bois」で岡山に呼び込み、岡山桃太郎空港から帰京するコ



分岐点等への案内看板や路面標示の設置、周辺観光施設までの距離表示の整備等を行う」との答弁があった。八年が経つが八年間の取組状況はどうなっているのでしょうか？

土木部長 平成二十八年以降、新たに十二基の案内板を設置し、百四十五箇所で路面標示などを行っている。

岡山県サイクリングロード推進協議会と連携を取って、吉備路の名所旧跡等をブルーライン（*の箇所を参照）で繋いでいくお考えはあるのでしょうか？

土木部長 ルート周辺に多く点在する観光地を全てブルーラインでつなぐことは、観光客（サイクルリスト）にとっではかえってどちらに進めばよいか分かり難くなるおそれもある。（中略）観光客に分かりやすい情



スが出る。岡山桃太郎空港におけるサイクルリストの受け入れ態勢整備を進めてはいいでしょうか？

知事 空港に設置されているサイクルステーションについて、設備・サービスの充実に努めるとともに、SNS等を活用して、サイクルリストへのPR強化を図っていきたい。



9月定例県議会 トリで一般質問



県政テレビ討論会収録

七月三日

六月定例会県議会代表質問を振り返って、四人の議員でテレビ討論した。



パワースターション社視察(玉野市)

七月五日

バッテリーのセルをパッケージングしている工程と、パワースターション社製急速充電器での充電の実演を見せて頂いた。

安全・安心な県土づくり

総決起大会(東京)

七月十八日



岡山県の公共工事の内、国による補助額は、県民一人当たりで見ると、全国最低レベルであるというところを、国交省幹部に説明し、

県内要望箇所へ採択を増やしていただくように要望した。参加者は知事、県内市町村長、県議会議員、県内市町村議会議長等の総勢百二十名であった。

加茂発電所視察(津山市)

七月二十五日

現在は無人で発電所の運転がされていた。制御はリサーチパーク(岡山市北区)にある指令室で行われている。



吉井川水系 発電能力: 最大 14000kW

ChatGPTの業務への活用実例の研究

七月三十日



生成AIを活用して作った「市長の英語スピーチビデオ」を見せてもらった。本人が喋っているように見えた。とても驚いた。



横須賀海上自衛隊を視察

七月三十日

海上自衛隊には、災害に遭った地域への救助活動も任務に入っている。これまでの出動実績を聞かせて頂くと同時に、組織や救助出来ること等について学んだ(説明中の写真撮影は禁止とされた)。その後、駆逐艦むらさめを見学。



サイクルトレインの取り組みをしている伊豆急行(株)を視察

八月一日

伊豆急行単独の取り組みで、JRとの接続は出来ないとのことであった。伊豆急行でマイ自転車を持って来て、伊豆高原をサイクリングすることが出来る。不勉強だったが、岡山駅を拠点にしている観光列車La Maille de Boisはサイクルトレインとなっている。

働き方改革に取り組む県内企業を視察(玉野市)

八月七日



育児中の女性社員等が働きやすいように、勤務体系に柔軟性を持たせていた。



長島愛生園歴史館(瀬戸内市)

八月七日

長島愛生園歴史館で、この島での昔の暮らしについて説明をしていただいた。その中で、無数の孔が開けられた投票箱についての説明を受けたが、この投票箱は私が子どもころまで使用されていたとのこと。ここを是非一度は訪ねてほしいと思います。

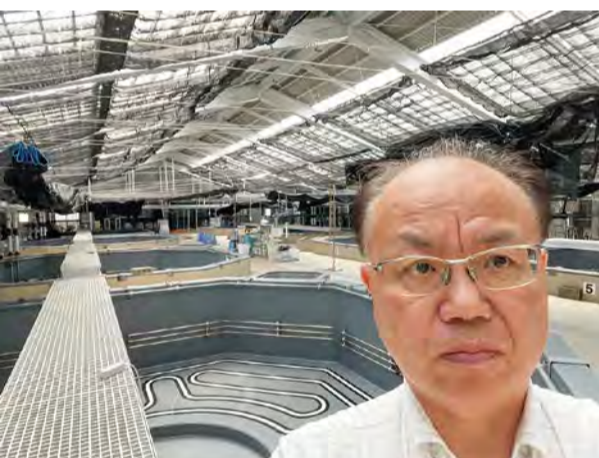


水産研究所(牛窓)

八月二十日



約十億円で建て替えされた研究棟に初めて入った。ここで、ガザミ、オニオコゼ、ヨシエビのふ化幼生を見せていただいた。一定の大きさに成長すると、瀬戸内海に放流される。



岡山平野で大規模農業を行う法人の視察(岡山市南区)

八月二十日

経営面積百八十ha、栽培品目は米、麦(もち麦、ビール麦)、八トムギ、黒大豆とのこと。この中の米であるが、酒用にして、利益を上げるような取り組みとなっていた。その他に、加工販売も手掛けている。ここまではからこそ利益を伸ばしていた。



第七十八国民スポーツ大会壮行式(岡山武道館)

九月二十四日

壮行式には、陸上や野球など二十六競技の選手や監督など関係者およそ五百人が参加した。選手たちは「優勝を目指して頑張ります」などと競技ごとに決意を表明した。

吉備高原都市住区

九月二十六日

吉備高原都市住区(八五二区画)について、見渡す限り、更地であった所にも、次々と新築されていった。そして、宅地の引き合いが急増していて、今年度内にも完売との見通しも出ている。

ここは岡山県が開発したところで、この流れをしっかりと受け止めて、今あらためて出ている住民要望を実現していくことで、開発の理念である「一人間尊重福祉優先」のまちに近づいていきたいと考える。

森の芸術祭(岡山県北)

九月二十七日

プレイベントに参加した。総事業費約三億円で始まったが、九月末時点で約六億円の事業となっている。十一月二十四日まで開催されている。この秋、アートを楽しんではいかがでしょう。



奈義町



次回もお楽しみに!

編集後記

失われた三十年という言葉がよく使われた時があったが、この三十数年間、旺盛な海外投資がなされた。今、海外で、日本ブランドの自動車、日用品なども生産されている。その反省から、国による産業支援が盛んになっている。今よく報道されているのが、半導体やGX化の支援等である。航空機、宇宙、医薬品、化学等の研究開発・生産設備の更新などに対して国の後押しをすれば、これからも日本は夢と希望のある国に再生すると信じる。

(M・O)